

山口県
研究主題)

「自ら課題を見つけ主体的に活動する生徒の育成」

～「確かな学力」の向上をめざして～
岩国市立平田中学校
(平成14年度～平成16年度指定)

(学校の所在地・生徒数)
山口県岩国市立平田中学校 生徒数 528 名
〒740-0072
岩国市平田六丁目 10-33
電話：0827(32)1111

1 研究主題の設定理由

本校の生徒は、落ち着いて学校生活を送っており、授業には真剣に取り組む。体育祭や文化祭などの学校行事では、「教師の指示を受けるだけで創ったベストのものより、生徒が主体で創り上げたベターなものを」の考えから、常に主役は生徒である。たとえそれがベストでなくベターなものであっても、生徒たちの感動とよこびは大きく、身に付く力もはるかに大きい。

しかし、授業ではどうかというと、自ら問題を解決していこうとする力が十分備わっているとは言いがたい。難しいと感じたとき、深く追求しないで途中で投げ出す生徒も多い。

加えて、学習の効果が一時的な定着で終わってしまっている傾向があること、指導内容の系統性の強い数学などで、小学校での学習内容の理解が不十分な生徒に対する配慮が必要であること、などが問題点としてあげられる。

したがって、こういう生徒たちが「分かった」「できた」という感動を味わい、自信を持って難しい課題・次のステップにも取り組んでいける力をつけたいと願い、この主題を設定した。

2 研究の特色及び概要

(1) 研究推進体制の工夫

二年次は全教科で学力向上への努力点を設定し、全教員で研究を進めた。その中でも、生徒による授業評価を実施し、授業改善を行ったこと、さらにそれを全体で協議し、全職員で共有したことは、学力向上へ

の全職員の意識を高めるとともに今後の課題を見出すきっかけとなった。

少人数指導については、生徒や保護者のアンケートから、いくつかの不安な点や改善点があげられたものの、その効果を期待し、9割以上が「今後も少人数指導を希望する」と答えていた。

また、生徒に実施した「魅力ある授業に必要なもの」のアンケートでは、学年によって多少の差はあるものの、「考える時間が十分ある」「解ける問題があり、分かったと感じる」などの達成感や充実感に関する内容や「先生が興味がわくような話し方をする」「先生が明るく、元気」「先生の話がはっきり分かる」などの教師の話術に関する内容、さらに「友達とグループ活動ができる」「ゲーム感覚の内容がある」「実験や体験学習がある」などの学習方法に関する内容の回答が多かった。保護者からも今後の授業づくりのヒントとなるような意見や反省すべき点など、貴重な意見が多数寄せられた。

このような生徒や保護者からの意見、アンケートの結果などを真摯に受け止め、最終年度も生徒による授業評価を生かしながら、ただ単に知識を身に付けさせるだけでなく、学ぶ意欲を育て、思考力、判断力、表現力が身に付くような魅力ある授業の創造に努力していくこととした。

(2) 研究の実際

CRTの実施と伸ばしたい力の設定
二年次は学力向上の努力点を各教科で設定したが、最終年次は伸ばしたい力をはっきりさせ、各教科の指導においてもより具体

3 生徒の実態と伸ばしたい力

○CRT結果
上記の表のように、観点別に見るとどの観点も全国得点率とほぼ同水準であり、③観点の評定(平均)でも同様のことが言える。

| 各観点別 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|-----|
| 言語 | | | 算数 | | | 理科 | | | 社会 | | | | | | | | | | |
| 男子 | 女子 | 全校 | 男子 | 女子 | 全校 | 男子 | 女子 | 全校 | 男子 | 女子 | 全校 | | | | | | | | |
| 80.4 | 53.4 | 58.1 | 57.2 | 102 | 72.1 | 77.8 | 75.5 | 78.3 | 100 | 71.4 | 71.7 | 71.8 | 88.1 | 100 | 70.3 | 88.3 | 89.4 | 87.9 | 102 |

| 各領域別 | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|-------|------|------|------|----------|-----|------|------|------|------|----|
| I 数と式 | | | | II 図形 | | | | III 数量関係 | | | | | | |
| 得点率 | 全国 | 全国 | 得点率 | 全国 | 全国 | 得点率 | 全国 | 全国 | 得点率 | 全国 | 全国 | | | |
| 男子 | 女子 | 全校 | 男子 | 女子 | 全校 | 男子 | 女子 | 全校 | 男子 | 女子 | 全校 | | | |
| 73.4 | 71.8 | 73.7 | 74.1 | 99 | 73.0 | 71.7 | 72.4 | 87.5 | 107 | 59.3 | 81.8 | 80.4 | 81.0 | 99 |

しかし、領域別で見ると、図形領域は全国得点率を超えているが、数式領域、数量領域では全国得点率に達していないことが分かった。細かい内容で見ると、数式領域では少数のかけ算とわり算、整数の性質、がい数、数量領域では単位数あたり、速さの問題で数学的な見方や考え方をみる内容の達成度が低かった。
中学校数学では小数、分数の計算あまり出でないが、同じ計算では1年生で学習する、数式領域の正の数と負の数の計算がたいへん重要となる。
このことから、中学数学の基礎となる計算を中心に数学的な表現・処理能力を確実に身につけさせたい。あわせて、③観点のうち最も低かった、数学的な見方や考え方の得点率を上げさせたい。

4 研究の構想
計算力を身につけさせるためには、授業中に考え方や計算方法を理解するだけでなく、その後の計算練習を繰り返す必要がある。そのため、毎回の授業や家庭学習で簡単に取り組める教材を工夫していきたい。
授業では、導入等で数学的な見方や考え方を必要とする課題を与え、興味・関心を持たせる授業を展開したい。そのことで、学習内容の定着度を高めるとともに、多様な見方や考え方ができるようにさせたい。

性を持って臨むようにした。

そのため、5月にCRTを実施し、本校生徒の学力を把握した。その結果を考察し、

年間計画を作成する際に、伸ばしたい力をその中に盛り込んでいった。

魅力ある授業の工夫

先に述べたように、知識を詰め込み、学力を向上させるのではなく、生徒が興味を持って取り組み、楽しかったと感じるような魅力ある授業を、それぞれの教科で工夫していった。

1年数学科ではプレゼンテーションソフトを使った授業を実施した。その利点は次のようなことが考えられる。

ア 興味関心を引く効果

生徒はほとんどの授業で黒板に向かい、白、黄、赤などのチョークで書かれた板書を写している。そんな中、プロジェクターで映し出されたものを見ながら授業を行うことは、珍しさもあり、興味を持たせる効果があると考えられる。さらに、字や図の色なども工夫することができ、きれいに見える。

また、字や図の現れ方や動きにも趣向を凝らすことができ、興味を引くことができる。

イ イメージ作りの手助け

文章問題を解く場合、その状況をイメージできるかどうか、問題が解けるかどうかに関わってくる。

しかし、全員が問題の状況と同様の体験をしているとは限らないし、文章を読んだだけでは、そのイメージが浮かばない生徒も少なくない。

そのため図を使ったりするわけであるが、プレゼンテーションソフトではそれに動きを加えることができ、ただ単に図で示すよりイメージが作り易くなる。

また、手順に従って文章が現れるようにすることにより、正しい理解に役立つと考える。

その他の教科においても生徒の興味関心を引く工夫を行った。

生徒による授業評価

二次同様、全教科で生徒による授業評価を実施した。全教科で一斉に実施したのは6月下旬と11月中旬の二回である。

6月実施のアンケートは1学期の授業に対する評価と生徒の学力や取り組み状況を把握するためのアンケートである。夏季休業中に、そのアンケート結果を考察し、2学期の授業の構想を練った。

11月実施のアンケートは個々がやってみようと考えていた授業を実施し、それに対する評価である。

この二回以外に、それぞれの教員が個々の計画に従い適宜、アンケートを実施した。

3 研究の成果と今後の課題

(1) 伸ばしたい力を設定した授業の工夫

1 学年理科では第1回のCRTで「観察・実験の技能・表現」と「科学的な思考」

が全国平均に比べて大きく劣っていたことが判明したため、次のことを授業の重点事項として掲げた。

ア 観察・実験の手順や方法のもつ意味をしっかりと理解させる。

イ 傍観者を出さないよう、全員に観察や実験の操作をさせる。パフォーマンステストも取り入れる。

ウ 現象に対して常に「なぜ？」と問いかけることにより、単なる知識の暗記に陥らないようにする。

その結果、第2回のCRTでは、「観察・実験の技能・表現」が大きく全国平均を上回ることができた。

2 学年数学科では「表現処理」の力を伸ばすことをあげた。

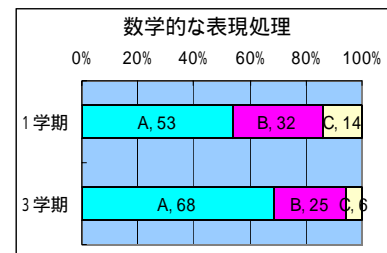
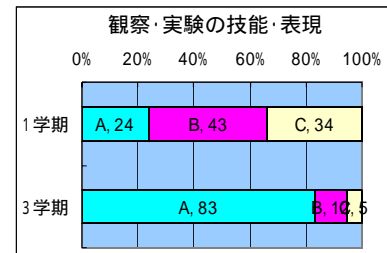
年間を通じて計算練習を続けた結果、CRTの数値からもわかるようにながりの伸びが見られ、日々のドリル練習の重要性を改めて認識した。授業の中のわずかな時間であったが、大きな成果が見られた。

(2) 生徒による授業評価に対する教員の考え

何度か実施すると、アンケート作成については難しく感じる人は少なくなったが、実施については時間確保が難しいと感じる人が半数近くいた。

ただ、全教員が授業評価を実施することが、授業改善に役立つと考えている。特に、授業の流れや進める速さを考慮するようになったという回答や、個別指導を多くしたという回答が多く見られた。少人数指導の影響もあるのではないかと考える。

集計については、学期に1回程度は実施するのがよいと考える。



A:十分満足 B:おおむね満足 C:努力を要する

< 参照できるホームページアドレス >

<http://www.sky.icn-tv.ne.jp/~hiratajh/>

岩国市立平田中学校